

安全の手引き

令和7年1月

在レシフエ日本国総領事館

はじめに

当館の所在するレシフェ市では、2024年に殺人事件が617件発生しています。この数字は10万人あたりの割合に換算すると41.4人となり、ブラジル国内の一都市で起きた殺人事件数が、日本全体（0.73人）の約56倍の発生率を持つという結果になります。この事から当地の治安はきわめて悪い状況であると言えるでしょう。そして、この発生率はブラジル国内においても常に上位に位置しています。その理由として、当地での犯罪には、拳銃やナイフを使用したものが非常に多い事が挙げられます。更に近年では犯罪の手口も凶悪化していますので、当地で生活または訪問される際には「自分の安全は自分で守る」必要があることを深く認識し、渡航・滞在の目的に合わせた情報収集や安全対策に努めて下さい。

繰り返しになりますが、中南米、特にブラジルでは拳銃やナイフを使用した犯罪が多いため、一歩間違えれば命を落としてしまう危険があります。当地では、日本で生活していれば、想像もつかないことが日常的に起こり得ますので、普段の生活において、いかに犯罪被害に遭遇するリスクを抑えるように行動するかを念頭におくことが重要です。日本での生活と異なり、海外で安全を他人任せにすることは、非常に危険な考え方であることを肝に銘じてください。

この度、皆様の当地滞在が、より安全なものとなるための一助としていただきたく、留意事項をまとめた「安全の手引き」を改訂しました。お気づきの点等ありましたら、ご意見等お聞かせ下さい。

在レシフェ日本国総領事館

電話：(81) 3049-8300 (代表)

住所：Av. Eng. Domingos Ferreira, 1097

Edf. Gabriel Bacelar Corporate 7ºandar

Boa Viagem - Recife PE CEP:51011-051 BRASIL

ホームページ：https://www.recife.br.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html

目 次

1. 基本的な心構え

2. 当地の治安情勢

(1) レシフェ市及び同大都市圏（ペルナンブコ州）における犯罪発生状況

(2) サルバドール市及び同大都市圏（バイア州）における犯罪発生状況

(3) フォルタレーザ市及び同大都市圏（セアラ州）における犯罪発生状況

(4) 2024年に管轄地域で発生した主な事件

3. 日常生活における犯罪被害のケースと対策

(1) 外出時

(2) 車両（自動車等）の利用時

(3) 交通機関の利用時

(4) ショッピングセンターや銀行等を利用時

(5) 自宅関係

(6) 被害に遭ってしまった場合

4. 緊急事態対処

(1) 平素の準備

(2) 緊急時の行動

(3) 緊急事態に備えてのチェックリスト

5. 交通事情

(1) 道路事情

(2) 運転事情

6. その他

(1) 主な連絡先

(2) 簡単なポルトガル語集

1. 基本的な心構え

海外生活では、様々な点で日本国内とは異なります。特に日本は、ここブラジルと比べ犯罪が少なく治安の良い国です。そのため、日本に滞在している感覚で、当地で生活すると犯罪被害に遭遇する可能性が非常に高くなります。日本の電車内では通勤や通学途中で居眠りをしたり、スマートフォンに熱中したりと、まるで自身の家の中にいるかのようにリラックスした人をよく見かけますが、当地ではこのような光景は考えられません。基本的に、日本人は「自分の安全は自分で守る」という犯罪に対する意識が低いといわれており、安全に対して他人任せになっている面があります。「自分に限っては大丈夫だろう。」「自分は被害者に

はならない。」と安易に考え、最悪の事態を想定した考えに至らない傾向があります。当地では、普段の生活において、いかに犯罪被害に遭遇するリスクを抑えるかを念頭におき、犯罪に巻き込まれる確率を減らす行動が必要不可欠です。

(1) 常に警戒心をもって行動する

普段の生活においては、可能な限り用心・警戒を怠らないようにして下さい。警戒を継続することは大変困難で、息苦しいと感じることもありますが、当地に滞在するためには重要なことです。特に、外出される際は、周囲への警戒を継続して下さい。

(2) 目立たない服装・行動をとる

派手な服装や高価なネックレス・腕時計等の装飾品を身に付けて歩いたり、周囲を警戒せずにカメラ撮影をしていたりすると当然目立ちます。また、最近ではスマートフォンを狙った強盗事件がブラジル国内で非常に多く発生しており、日本の様に屋外でスマートフォンを使用することは大変危険な行為です。元々、当地では東洋人が少なく、目立たないように意識していても、日本人は目を引きます。目立つということは、犯罪者から見て格好のターゲットになる可能性も非常に高くなりますので、可能な限り周囲に馴染んだ服装や行動を心掛け、高価なネックレスや腕時計等の装飾品を身につけることは控え、スマートフォンの使用もなるべく屋内で最低限にとどめるよう心掛けてください。

(3) 行動のパターン化を避ける

通勤・通学の際のルートは、複数を検討し、毎日決まった道を歩かず、ルートを変更してみる、時間帯を少しずらしてみる等工夫をして下さい。犯罪者のターゲットになる確率を少しでも下げることに繋がります。

(4) 絶対に抵抗しない

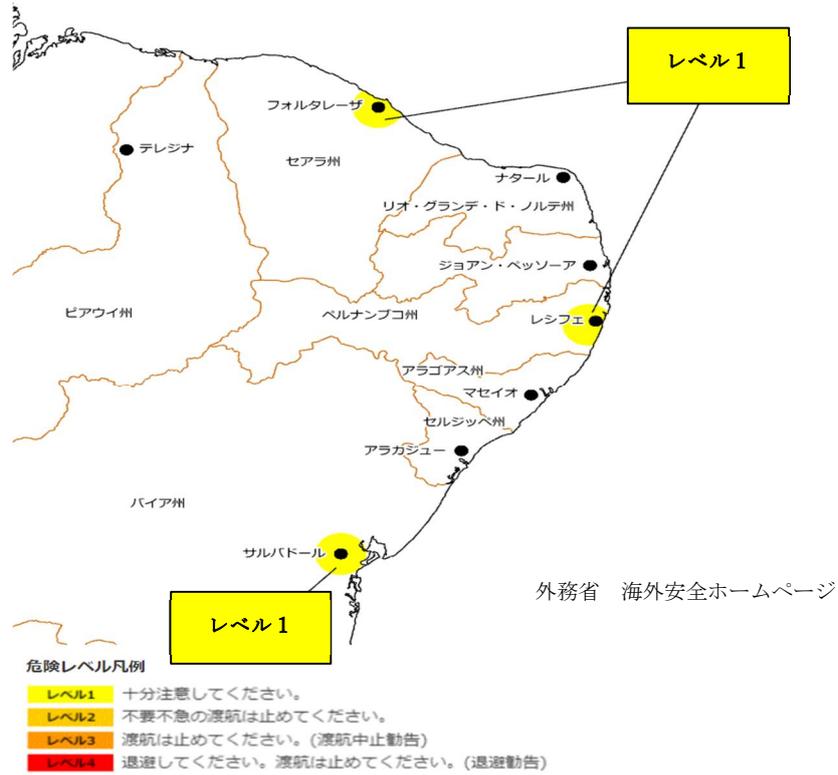
強盗等に遭遇した場合は、絶対に抵抗しないで下さい。犯人の顔を見ずに犯人の要求に素直に従い、その場を凌ぐことが重要です。冒頭でも述べましたが、当地では拳銃を使用した犯罪が非常に多く、犯人に抵抗してしまったため、最悪の結果を招いたという事例が多く報告されています。犯罪に巻き込まれた際は、焦らず冷静な対応を心掛けて下さい。

2. 当地の治安情勢

繰り返しますが、当地では拳銃を使用した殺人や強盗等の凶悪犯罪が多発しています。犯罪手口も凶悪化しており、貧しい人々が住むスラム街（コミュニダージ／ファベラ）が市内に点在しており、違法薬物の売買や強盗等の犯罪の温床となっています。比較的人通りの多い商業地区でも警察と強盗団の銃撃戦が昼夜を問わず発生しており、流れ弾で多くの市民が死傷しています。観光地でも、観光客を狙った拳銃、ナイフ等を用いた強盗事件が発生しています。

外務省では、それぞれの国・地域の情勢に応じ、4段階の危険レベルを設定しています。当館管轄のペルナンブコ州大レシフェ圏、バイア州大サルバドール圏およびセアラ州大フォ

ルタレーザ圏では「レベル1：十分注意してください」を継続しています。その国・地域への渡航、滞在に当たり危険を避けて頂くため、特別な注意が必要となります。



ブラジルではこれまでに、国際テロ組織によるテロの直接的な標的にされたことはありません。また当地の治安当局によれば、国内にテロ組織そのものが存在しないと言われており、在留邦人がテロ被害に遭遇する可能性は低いと言えますが、日頃より最新の治安情報を入手することに努め、状況に応じて適切な安全対策を講じる必要があります。

誘拐事件については、ブラジル国内において短時間誘拐（被害者を拘束し、P i x（電子決済システム）等で現金を送金させた後で解放する）が発生しています。行動パターンに変化をつける等、日々の行動を定型化しないように心掛けて下さい。

（１） レシフェ市および同大都市圏（ペルナンブコ州）における犯罪発生状況

ペルナンブコ州社会防衛局の発表によりますと、２０２０年から毎年増加傾向にあった州の殺人件数は２０２４年に減少しました。同時に強盗件数も減少しておりますが、レシフェ市およびレシフェ大都市圏では殺人事件・強盗事件共に昨年に比べて増加しており、依然として拳銃を使用した凶悪犯罪が後を絶たない等、体感治安は一向に改善されていません。殺人発生率の高さは、主に麻薬や銃の違法取引とアルコール依存症に関連する犯罪が原因ですが、拳銃を使用した犯罪が多く、銃撃戦に発展した結果、住民や通行人が流れ弾に巻き込まれるケースも少なくありません。犯罪が発生する時間帯も、必ずしも夜間とは限らず、当地では比較的治安が良いとされている地区でも、拳銃による殺人事件・強盗事件が発生しており、当館や館員住居の至近や海水浴場でも同様に殺人事件や強盗事件が発生しています。また、当地ではスラム街（コミュニダージ／ファベラ）が市内に点在しており、高層マンションやビル街の谷間にバラック小屋がひしめき合うという光景も珍しくありません。それらの周辺地域では麻薬の売買・強盗・スリ等の被害が頻発していますので、絶対に興味本位で近づいたりしないで下さい。建物の造りや状態、街の雰囲気

明らかに他と異なりますので、万一、迷い込んでしまった場合は、速やかにその場から立ち去るようにして下さい。

(2) サルバドール市及び同大都市圏（バイア州）における犯罪発生状況

ブラジル国内でも有数の観光地であるサルバドール市には、国内外から多くの観光客が集まり、多数の邦人も訪れています。

2022年には在留邦人が被害にあう事案が複数件発生しており、2024年にも外国人観光客が強盗未遂の末に銃撃された事件が起きております。時間帯問わず自己防衛を心掛けることが重要です。特に旧市街等の観光地や大規模なイベント・祭等の際には観光客を狙い強盗やスリ等の犯罪が多発しますのでより安全に気をつける必要があります。

近年、バイア州では市中への顔識別監視カメラ設置が進められており、逃走犯の検挙が進んでいますが、体感治安が改善された訳ではなく、劣悪な治安状況は継続されていますので、観光で訪れる際には特に危険な夜間の外出等を避けるよう、十分注意してください。

(3) フォルタレーザ市及び同大都市圏（セアラ州）における犯罪発生状況

セアラ州では、2019年の1月及び9月、州内刑務所の監督方針に抵抗した犯罪組織による公共施設等への連続襲撃事件が長期間発生しました。主にフォルタレーザ市で襲撃事件が発生し、バスや車両、公共施設に対し放火等の襲撃を繰り返しました。また、2020年2月には、軍警察のストライキが発生し、一時期、無法地帯と化した地区もありました。

2024年にはそのような大きな事件はなかったものの、3年ぶりに殺人事件件数が増加しており、10万人あたりの殺人発生率は58人と日本の約78倍にもなっています。

主な原因は麻薬密売組織同士の抗争とされており、流れ弾による一般市民の被害や人違いによる殺人事件も多発しています。組織の関係者の逮捕は進んでいますが、治安は改善しておらず、注意を怠ることはできません。殺人事件や強盗事件の発生は昼夜を問わず、拳銃により多くの犠牲者が出ています。当館管轄内でも犯罪件数の数値が高く、劣悪な治安状況となっていますので、観光などで訪れる際は十分に注意してください。

(4) 2024年に当館管轄区域内で発生した主な事件

ア ペルナンブコ州レシフェ市

レシフェ市ボア・ビアージェン地区において、観光客の男性（35歳）がオリンダ市でのカーニバルを楽しんだ帰り道に強盗に遭い死亡した。犯人は後に逮捕されたが警察の取調べに対し、「自分はホームレスで強盗で手に入れた携帯電話を200リアル（日本円で5000円程度）で売却し麻薬を買った」と供述した。

イ ペルナンブコ州レシフェ市及びオリンダ市

カーニバルの期間中、レシフェ市およびオリンダ市で合計29人が人混みの中で何らかの注射器針で刺されたと届け出て、性感染症(STI)の治療と予防に特化した病院で治療を受けた。ここ数年でカーニバル時期に針で刺されたという事件は多々あり、犯人や動機は未だ不明となっている。

ウ ペルナンブコ州レシフェ市

レシフェ市ピナ地区のビーチにて二人組の男性が銃撃された。一人（28歳）が死亡し、もう一人（37歳）は重傷を負った。亡くなった男性は仮釈放もしくは一時的に保釈されている受刑者であることを示す電子足輪を装着していたことから、犯罪者グループによる内輪もめとみられている。

エ ペルナンブコ州レシフェ市

レシフェ市ボア・ビアーゼン地区のアパートで警察の制服を着用した5人組の犯人がアパート内にいた家政婦を脅し、当該家政婦が働いていた被害者夫婦の住居に案内させ、居住者夫婦に暴行を加え緊縛した後に室内を物色。現金、宝石、携帯電話、クレジットカード等を盗み逃走した。

オ バイア州サルバドール市

サルバドール市の有名観光地ペロウリーニョ広場でウルグアイ人観光客が強盗未遂に遭った。また、同日、旧市街のラデイラ・ダ・プラッサで観光客の男性が強盗に遭っていた女性を助けようとして銃で撃たれた。容態は不明。3人の犯人の内、1人は逮捕されたが、2人は逃亡。

カ セアラ州フォルタレーザ市

フォルタレーザ市モウラ・ブラジル地区で観光客3人がイベント会場へ向かうため地図アプリに指定されたルートで移動したところ、犯罪グループが支配する区画のオイタン・プレットに入ってしまう、銃撃を受け、男性1人（58歳）が死亡した。

キ アラゴアス州ヒオ・ラルゴ市

ヒオ・ラルゴ市ノソ・バイホ地区の河川で若者4人が遊んでいたところ、7人の男性グループが近づき銃を乱射した。若者の内3人の死亡が確認された。犯人は逃亡。動機は不明のまま。

3. 日常生活における犯罪被害のケースと対策

(1) 外出時

ケース①

- ・信号待ちやバス（バスは強盗等の犯罪に巻き込まれる可能性が非常に高いため、当館としては利用を控えるよう案内しています）を待っている間に、後ろからバッグをナイフ等で切られ、中身を盗まれる。或いは何気なく近づいてきた子供に所持品をひったくられる事件が多発しています。特に一人歩きの女性や老人に加え、我々日本人はどうしても目立つことから狙われやすく、ネックレス等の装飾品を強奪される事件が多発しています。
- ・突然、背後から後頭部を殴打されたり、タックルで押し倒されたり、ひるんだ隙に所持品を奪われる等の事件が多発しています（複数犯によるグループ犯行が多い）。

- ・突然、複数の男や少年等に囲まれ、拳銃やナイフで脅され所持品を奪われる事件が多発しています。
- ・背後からバイクで近づき、バッグやネックレスをひったくる事件が多発しています（バイクの場合も一人ではなく複数での犯行が多い）。

対策①

- ・外出時は、所持品の携行には細心の注意が必要です。地元住民が、ハンドバッグをたすき掛けにしている、リュックサックを背負うのではなく胸の前で抱えている姿をよく見かけますが、こういった行動は、ひったくりの被害を少しでも避けることが目的です。同様に財布やスマートフォンをお尻のポケットに入れないことも、強盗やスリから身を守る方法の1つです。一目で高価な物とわかるネックレスや腕時計等の装飾品や華やかな装いは、ターゲットを物色している者から目を引きやすくなります。服装全般に気を配り、目立つ服装で街頭を歩かないよう、また、周囲と同化するような服装を心掛けて下さい。スマートフォン等の携帯電話やタブレット型端末機を狙う強盗が国内で多発していますので、人通りの少ない場所や夜間の路上での使用時は、特に周囲を警戒するよう心掛けて下さい。

ケース②

- ・ひったくりの被害に遭い、逃走する犯人を追いかけようとする、拳銃やナイフを所持した仲間が立ちはだかり、進路の妨害を図るばかりでなく、攻撃してくることもある。

対策②

- ・被害に遭遇した際は、絶対に抵抗しないで下さい。逃走する犯人を追いかけるようなことは絶対にせず、悔しい気持ちを抑え、冷静な行動を心掛けて下さい。ひったくりといえど

も犯人は単独行動をすることは稀です。必ず周囲に見張り役の仲間が潜んでいます。抵抗する者に対しては、容赦なく拳銃やナイフで攻撃してきます。犯人も必死なので、抵抗することにより犯人が逆上し、最悪の事態に至るケースも多く報告されています。

ケース③

- ・知らない人に気軽な口調で呼び止められ、時間を尋ねられて腕時計で時間を確認している間にひたたくりに遭う。または、そうした隙に乗じて、拳銃やナイフを突きつけられ所持品を奪われる。

対策③

- ・人の親切心を利用した犯行の手口です。本当に親切心で話し掛けてくれる人との違いを見分けることは難しいので、見知らぬ人には簡単に気を許さないように心掛けて下さい。不用意に話しかけてくる人には、十分な間合いを保ち、目を離さないことが重要です。特に日本人は、話しかけられると、つい親切に対応してしまいがちなので注意して下さい。

◎ポイント

- ・不審者がいないか、後ろを尾行されていないか常に周囲を警戒する。
- ・進行方向へ進む前に、進行方向とは逆を振り返る等、警戒心を怠らない。
- ・人通りが少なく、暗い道は通らない。
- ・外出の際は、高価な装飾品や腕時計は極力身につけないようにする。

- ・パーティ等で貴金属や腕時計を身につける必要がある場合は、会場に入ってから身につける。
- ・必要以上の現金は持ち歩かない。
- ・現金は分散し所持する。
- ・身分証明書や現金、カード類を別々に所持する。
- ・スマートフォン等の携帯電話やカメラは目立たないように所持し、使用する際も周囲の状況をよく確認する。

(2) 車両（自動車等）の利用時

ケース①

- ・駐車中の車両内からバッグ等の荷物を盗まれる場合や車両そのものが盗難される事件も多発しています。

対策①

- ・路上駐車が可能な場合であっても、周囲の状況と時間帯を考える必要があります。監視員のいる有料駐車場が近くがあれば、必ずそちらを利用して下さい。また、車両に盗難防止装置を設置し盗難に備えることも重要です。正しい鍵を使わなければクラクションが鳴動する警報装置や、燃料が流れなくなる仕組み等、新たな防犯装置も販売されていますので、これらを備えておくと効果的です。普段から、貴重品やバッグ等はトランクに入れ、車外から見える場所には決して置かないように心掛けて下さい。

ケース②

- ・信号待ちで停車中に、開けていた窓から手を入れられたり、窓ガラスを割られたりして、強引に時計やネックレスを盗られる事件が多発しています。また、停車中に犯人が数人で近寄り、拳銃やナイフを突きつけ、金品や車両を強奪されることもあります。

対策②

- ・不用意に窓を開けていると、このような被害に遭います。停車中は窓を閉める、または手が入らない程度に小さく開ける等、注意を怠らないようにして下さい。手を入れられネックレスを盗られた場合は、首にひどい怪我を負う可能性もありますので注意して下さい。また、怪しい人物が近づいてくる場合に備え、赤信号で停車しなければいけない場合には青信号になるまでゆっくりと走行しながら前方車との距離を詰め可能であれば完全に停止しないほうが安全です。

ケース③

- ・車両を走行中に、併走する車両や付近の人が車両の故障を教えてくれたため、確認しようと車外に出たところを襲われる。逆に路上で車両の故障により困っている人がいたため、車を停車し、声を掛けたところを襲われる。

対策③

- ・親切そうに振る舞って油断させ、相手の親切心を利用した手口です。ブラジル人は親切で正直な人も多く、実際に故障を教えてくれたり、修理を手伝ってくれたりする場合がありますが、相手が見知らぬ人である限り、油断せず警戒心を持って対応するように心掛けて下さい。

ケース④

- ・ 駐車中に、車両のタイヤをパンクさせられ、タイヤの交換をしていると襲われる。また、走り出してからパンクに気付いた場合でも、尾行され車外に出たところを狙って襲われることがある。

対策④

- ・ パンクを見つけた場合は、周囲の状況を確認し、可能な限り人通りの多い場所やガソリンスタンド等の適当な場所へ移動してから、タイヤ交換を行うようにして下さい。また、修理を依頼し、待機している際も、周囲の警戒を怠らず、要すればビルやレストラン等比較的安全な場所へ移動し待機するようにして下さい。強盗だけでなく、誘拐の危険性もありますので、決して車内で待機することがないように注意して下さい。

ケース⑤

- ・ 田舎道を走行中に転倒している二輪車とその近くに人が倒れているのを発見したので、確認のため車外に出て声を掛けたところを付近の茂みに隠れていた犯人に襲われる。

対策⑤

- ・ 車通りの少ない田舎道で複数人の犯人グループがよく使う手口です。心配して助けようとする心理はありますが、高確率で偽の事故ですので心配であれば通り過ぎて十分な距離を取ってから救急隊（192）へ通報しましょう。

◎ポイント

- ・外から見える場所にはバッグ等を置かない。
- ・乗降時は必ず周囲に不審者や不審車両がないか確認する。
- ・走行中にパンクした場合は、その場には止まらず、ガソリンスタンド等比較的安全な場所へ移動する。
- ・必ずドアロックをし、窓は閉めた状態にする。
- ・信号等で停車する場合は、早めにブレーキをかけ、ゆっくり進み、極力停車時間を短くする。
- ・駐車場を必ず利用する。

(3) 交通機関の利用時

ケース①

- ・タクシー利用時に、降車後に料金を渡そうとしたところ、ひったくりで金品を奪われる。

対策①

- ・料金の精算や現金の受け渡しは車内で行うことが大原則です。また、必ず周囲の安全を確認した上で降車して下さい。またアプリによる事前精算が可能な Uber 等の配車アプリを使用することで乗り降りの場所の指定も含め移動の安全性を高めることができます。

ケース②

- ・混雑した路線バスやメトロ内でのスリ。バスやメトロの乗車口付近に立っていたら、扉の開閉時の一瞬の隙にハンドバッグをひったかれる。

※バスやメトロの利用は極力控えて下さい。

対策②

- ・歩行中と同様に常に周囲を警戒する必要があります。日本の通勤電車のように、居眠りをしたり、雑誌を読みふけていたりすると、隙が生まれますので注意して下さい。また、車両内での立ち位置は、乗車口付近は避けた方が無難です。

ケース③

- ・バスに乗車中に武装強盗（多くは複数）が乗り込んできて、所持品を奪われる。

※バスの利用は極力控えて下さい。

対策③

- ・バスの中での強盗事件は、日本では考えられませんが、ブラジルでは頻繁に発生します。万一、強盗に遭遇してしまった際は、周囲の状況を冷静に判断し、命の安全を最優先にした行動が必要です。反撃をしたり、逃走を試みたりすることは、最悪の事態を招く恐れがありますので、決して抵抗しないで下さい。また、当地では犯人以外の第三者（同乗者）も拳銃を所持している場合があります、犯人と第三者との間で銃撃戦に発展することもあります。もし、銃声を聞いた場合には、流れ弾を避けるため、またターゲットとならないよう、身をかがめて体勢を低くし、周囲の状況を冷静に把握するように努めて下さい。

◎ポイント

- ・流しのタクシーは利用せず、電話やアプリで呼び出すか、空港やホテル、ショッピングセンターに待機しているタクシーを利用する。
- ・タクシー利用時の料金の精算や現金の受け渡しは必ず車内で行う。
- ・乗降時は必ず周囲に不審者や不審車両がないか確認する。
- ・路線バスやメトロの利用は極力避ける。
- ・路線バス等を利用せざるを得ない場合は、スリやひったくりに十分注意をする。

(4) ショッピングセンターや銀行等の利用時

ケース①

- ・店員の不親切な対応や、会計の長い待ち時間で注意力が散漫になっている隙に財布等をスラれる。

対策①

- ・当地の接客では、日本のように速やかに対応することは稀で、混雑時には会計待ちの長蛇の列が出来ることもあり、イライラしたり、気が散ったりと注意力が散漫になることがありますが、安全への配慮は怠らず、周囲の警戒を忘れないよう心掛けて下さい。

ケース②

- ・銀行（ATMを含む）から出たところで、ひったくりや強盗に遭遇する。

対策②

- ・銀行で多額の現金をおろした利用客の跡をつけ、人通りの少ない場所で現金を奪う手口があります。複数犯の犯行では、狙った利用客の背中に気付かれないようにシール等を貼り、外で待ち構える仲間の目印にするパターンもあります。外部から見通せない造りの店舗でも、このような手口がありますので、常に周囲を警戒して行動して下さい。第三者から見えるような状態で多額の現金を引き出したり、派手な買い物をしたりすることは、当然ながら被害者になるリスクを高めますので、十分注意して下さい。また、ATM機を利用時に、偽のATM操作パネルが取り付けであったり、カードやパスワードの読み取り機器（スキミング手口）が取り付けであったりします。周囲に不自然な人物が居ないか、また、ATM機に違和感があったら、他の店舗や他のATM機を利用するようにして下さい。なお、銀行に限ったことではありませんが、銀行やショッピングセンター等を利用した際は、強盗に遭遇した場合を想定し、身を隠す場所や避難経路を予め確認するようにして下さい。また、これまで繰り返し述べておりますが、強盗に遭遇した場合は、絶対に抵抗しないことが安全のために重要です。

ケース③

- ・レストランやお店でのクレジットカード決済時に短時間カードを店員が預かりその隙にカードの写真を撮られ、後にクレジットカードの不正利用をされた。

対策③

- ・クレジットカードはカード番号、カード名義、有効期限、セキュリティコード（暗唱番号とは別の番号で、多くの場合、カード裏面に印刷されている）さえわかればインターネットショッピング等で利用可能な場合があります。また上記の情報を元にコピーカードを作成される場合もあります。クレジットカード決済時にはカード自体を店員に渡さず決済端末まで行くか、ワイヤレスの決済端末を席まで持ってきてもらい、一瞬でもカードを渡さない、写真を撮らせないことが大切です。

◎ポイント

- ・利用する曜日や時間帯をパターン化しない。
- ・多額の現金を一度に引き出さない。
- ・入店前から周囲に不審者・不審物がないか注意する。
- ・ATM機を操作する際は、周囲に見られないように注意する。
- ・スキミング被害に備え、ATM機に不審な点がないか確認する。
- ・緊急事態に備え、店舗の避難経路等を予め確認する。

(5) 在宅時

ケース①

- ・留守中の空き巣による窃盗が発生しています。

対策①

- ・常に戸締まりに注意することは当然ですが、一戸建て、アパートに限らず、地上階以外の窓も空き巣の侵入口になる可能性があります。これらの窓に格子を設置する等の補強対策を検討して下さい。警備会社と契約し、警備機器を設置したり、監視カメラを設置したりすることも、被害の未然防犯・拡大防止に有効な手段と言えます。また、留守の予定を知られてしまうと、不在の間を狙われますので、特に長期間不在にする場合は、第三者に悟られることがないように配慮して下さい。

ケース②

- ・配達員を装った強盗に、凶器で襲われ、押し入られる。

対策②

- ・訪問者に対して、不用意にドアや門を開けることがないようにして下さい。ドアスコープやチェーンロック等を設置し、ドアを開放しなくとも、訪問者と外の様子を確認出来るようにすることが重要です。また、防犯カメラを設置し、来訪者だけでなく周囲の状況も確認出来るよう対策することもお勧めします。
- ・また集合住宅の場合は共用部にドアマン及び警備員がいる物件が好ましく、ドアマンから来訪者に対して名前・来訪目的等を聞き取り、住人の許可を取ってから来訪者を居住スペースに通すシステムを採用している集合住宅が安全性が高いです。

ケース③

- ・使用人が、金品を盗んだり、強盗や空き巣の手引きをする等犯罪に加担することがある。

対策③

- ・使用人の採用については、慎重に検討する必要があります。可能な限り信頼のおける人の紹介で、身元の確かな人物を採用して下さい。この種の職業は、貧しい地域の人達が多く、例え本人に盗癖や強盗集団との関係がなくとも、盗みを働くこともあり、出来心を起こさせないように、現金や貴重品の管理には十分注意して下さい。また、日本人は使用人を雇うことに不慣れなため、優しく対応してしまいがちですが、採用後も十分な監督と教育が必要です。一方使用人と、しっかりとした信頼関係を築けば、家庭の安全を守ってくれる大切な一員として、大いに役立ってくれる存在になります。他方、使用人に対し、不信感があれば被害に遭う前に解雇を検討して下さい。ただし、解雇に当たっては逆恨みを買わないよう、労働法に従った対応が必要です。

ケース④

- ・家に警察官を名乗る者が訪ねてきた。

対策④

- ・警察官の制服を着ている、警察官を名乗る、パトカーに乗っている。これらをもって相手を警察官だと完全に信用することはきません。昨年もレシフェ市の高級アパートにおいて警察官の制服を着た集団強盗が発生しており、また警察とマフィアの癒着も散見され、今年に入ってからマフィアにパトカー、武器、制服を貸し出していた警察官が複数名逮捕

される事件も発生しています。警察官を名乗る者が訪問してきた場合は、用件を質し、相手の名前、所属を聞き取り、怪しいところがあれば、「警察署へ電話し訪問が正当なものであるか確認」する旨告げ、反応を見る等慎重に対応してください。また、必要であれば、実際に警察に架電し確認を取る等十分に注意して対応してください。

◎ポイント

- ・ 玄関扉や勝手口扉にはドアスコープやチェーンロックを取り付ける
- ・ 警備機器や監視カメラ等を積極的に設置し、防犯対策に努める。
- ・ 自宅に訪問者が来た場合は、不用意に扉を開けない。
- ・ 帰宅時に鍵が開いている等不審な点があれば、絶対に一人では入らない。
- ・ 非常時に助けを求めることが出来るように、日頃から近隣住民等と良好な人間関係の構築に努める。
- ・ 現金や貴重品は目につきにくい場所に保管し、使用人に見られないようにする。
- ・ 見ず知らずの人に家族構成や旅行の予定等をむやみに話さない。

(6) 被害に遭ってしまった場合

ア 不幸にも強盗等の被害に遭ってしまった場合は、落ち着いて冷静に行動して下さい。抵抗しなければ、身体に危害を加えられたり、最悪の事態を招いたりする可能性が低くなります。

◎ポイント

- ・絶対に抵抗しない。
- ・相手の指示に素直に従う。
- ・相手の顔を見ない。
- ・急な動きをしない。

イ 被害の際にケガ等を負った場合は、192番に電話して救急車を呼んで下さい。二次災害を発生させないように安全な場所から救急車を呼ぶようにして下さい。

ウ 被害届の提出

被害届は文民警察 (POLICIA CIVIL) に (B. O. 「Boletim de Ocorrência」) を提出し、受付後必ず控えを受け取ってください。被害届けの控えは、航空機搭乗時 (パスポート紛失の場合)、航空券発給及び保険請求の際に必要となります。なお、オンラインによる届出が可能です。が、ポルトガル語のみとなります。

また、現地当局への被害届のほかに当領事館へも必ずご連絡下さい。被害状況の確認、現地当局とのやりとりの補助、パスポートの再発行等のサポートができますので、必ず一報下さい。

4. 緊急事態対処

(1) 平素の準備

ア 「在留届」の提出

「在留届」を必ず提出して下さい。届出用紙を当館に提出する他、[オンライン在留届け\(ORRネット\)](#)での登録が可能です。提出されることにより、旅券・証明のオンライン申請が可能となるほか、航空機事故や大規模災害等の発生時や、事故や事件に遭った際に、「在留届」を基に本人確認を実施することで、その後の手続きがスムーズになります。以上の理由から、住所変更・転出・帰国の際にも必ず連絡をお願いします。

イ 避難場所

緊急事態が発生した場合に備え、事前に避難場所を確認して下さい。当館も避難場所となりますので、所在地を把握しておいて下さい。

在レシフェ日本国総領事館

住所：Av. Eng. Domingos Ferreira, 1097

Edf. Gabriel Bacelar Corporate 7ºandar

Boa Viagem - Recife PE CEP:51011-051 BRASIL

電話：(81)3049-8300

ウ 緊急時における携行品の整理・非常用物資の備蓄

旅券・現金・クレジットカードや通帳等を予めまとめておき、直ちに持ち出せるように日頃から整理しておいて下さい。また、緊急事態発生時には、一定期間、自宅で待機することも十分考えられますので、非常用の水・食事・医薬品等は家族全員が最低でも10日間は生活出来る量を準備して下さい。情報を収集するためのラジオ等も準備しておいて下さい（予備の電池も含む）。

（2）緊急時の行動

流言飛語に惑わされたり、群集心理に煽られたりすることのないように平静を保って下さい。テレビやラジオ、SNSを通じて情報を収集すると共に現地事情に詳しい知人からも情報を入手して下さい。状況によっては当館から避難指示等を出すこともあります。また、皆様が入手された情報も当館へ提供して頂くようお願いいたします。情報を共有することで、無用な混乱を避けることが出来ます。

（3）緊急事態に備えてのチェック・ポイント

ア 旅券

旅券については、常時6か月以上の残存有効期間があることを確認しておいて下さい。旅券の最終ページの「所持人記載欄」は漏れなく記載しておいて下さい。下段に血液型（Blood Type）を記入しておいて下さい。また、当国における外国人登録証明書等もいつでも持ち出せる状態にしておいて下さい。

イ 現金・貴金属・通帳・クレジットカード等

これらの物は、旅券同様にすぐ持ち出せるよう保管しておいて下さい。現金は、家族全員が10日間生活出来る程度の外貨および現地通貨を予め用意しておくことをお勧めします。なお、出国する場合の出国税および空港使用税（これらが必要な場合）の用意も必要です。

ウ 自動車の整備等

- ・自動車をお持ちの方は常時整備しておくよう心掛けて下さい。
- ・燃料は十分に入れておくようにして下さい
- ・車内には、常時、懐中電灯・地図・携帯電話の充電器・ティッシュ等を備え置き下さい。
- ・自動車をお持ちでない方は、近くに住む自動車をお持ちの方と平素から連絡をとり、必要な場合は同乗出来るように相談しておいて下さい。

エ 携行品の準備

避難場所への移動を必要とする事態に備え、上記ア～ウに加え、次の携行品を備え、すぐに持ち出せるようにしておいて下さい。

- ・衣類・着替え（長袖・長ズボンが賢明。また行動に便利で、麻・綿等吸収性、耐暑性に富む素材が望ましい。）
- ・履物（靴底の厚い頑丈なもの。また行動に便利なもの。）
- ・洗面用具（タオル・歯磨きセット・石けん等）
- ・医薬品等（家族常備薬の他、常用薬・外傷薬・消毒用石けん・包帯等）

- ・非常用食料等

しばらく自宅で待機する場合も想定して、米や調味料、水、缶詰等家族全員で10日間程度生活出来る量を準備しておいて下さい。自宅から他の場所へ避難する際には、それらを可能な限り携行するようにして下さい。

- ・その他

懐中電灯、予備のバッテリー、ライター、ロウソク、マッチ、ナイフ、缶切り、栓抜き、紙製の食器、割り箸、固形燃料、簡単な炊事用具、ラジオ、可能であればヘルメット、防災頭巾等。

5. 交通事情

(1) 道路事情

道路の状態は日本と比べると非常に悪く、道路に穴が開いている等、大通りから少し外れるだけで、舗装されていない道路が沢山あります。また時折発生する集中豪雨のため、排水が追いつかず冠水する箇所がいくつもあります。冠水時には道路上にある穴に気づかずにはまり込み脱出不能になることもあります。近年、当地では自動車・バイクの数が年々増加しており、また駐車場の整備が追いついていないため、路上駐車が横行しており、狭い道の両サイドに車が停められていて、通行の妨げになっていることが日常的にあります。大きな幹線道路でさえ、目の前の車が急に店の前で停車したり、ゴミ収集車が車線を塞いでいたり、自転車の集団が道路の中央を走行していたりします。それらを避けるために急な車線変更を迫られる事が多く、そういった車の動きにも注意が必要です。また、町中至る所に速度自動

取締機、ロンバーダ(スピード抑止目的で道路にもうけられた起伏)が設置されているため、その付近では急激な減速をする車も多いため、車間距離を十分に確保して、追突しないよう注意が必要です。

(2) 運転事情

ブラジル国内は日本とは異なり、右側通行で、左ハンドル車となります。また、大きな道路であっても一方通行である事が多く、そのうえ標識がしっかり設置されていないため、気をつけないと道路を逆走してしまうことになりかねません。交通マナーは非常に劣悪で、一般車はもちろん路線バスでさえ、ウインカーを出さない、強引な割り込みをする、中央車線からの右左折をする、一時不停止、割り込み防止のため車間距離を極端に詰める、歩行者がいても停まらない、歩行者も信号を守らない、車が来ていても道路を渡ってくる等々、日本との運転感覚の違いは挙げればきりが無い程です。そのため、当然運転時の不注意による交通事故が多発していますので、運転をする際には、周囲の状況に十分注意し、日本で運転するときよりも更に「かもしれない運転」に徹するよう心掛けて下さい。また、歩行者よりも車が優先される状況ですので、自分自身が徒歩で横断歩道を渡る際は、例え信号機が青であっても、左右を良く確認して渡るように心掛けて下さい。

ブラジルは、ジュネーブ交通条約の締約国ではないため、日本の国際運転免許証をブラジルで使用することはできませんので注意して下さい。ブラジル国内で運転するためには各州の交通局(DETRAN)にて筆記試験・実技試験に合格し、運転免許証を取得する必要があります。

6. その他

(1) 主な連絡先

(電話番号冒頭の(81)はペルナンブコ州のエリアコードです)

ア 在レシフェ日本国総領事館

電話：(81)3049-8300

住所：Av. Eng. Domingos Ferreira, 1097

Edf. Gabriel Bacelar Corporate 7ºandar

Boa Viagem - Recife PE CEP:51011-051 BRASIL

イ 緊急電話（局番なし）

警察 190

救急 192

消防 193

ウ 文民警察レシフェ空港分署（旅行者のための警察分署）

(DELEGACIA DO TURISTA)（日本語不可）

電話：(81)3322-4867（24H 対応）、(81)3184-3438

メール：dp.turista@policiacivil.pe.gov.br

エ 病院

(ア) エスペランサ病院(HOSPITAL ESPERANÇA RECIFE) (日本語不可)

電話 : (81)3131-7878

住所 : Rua Antonio Gomes de Freitas, 265

Ilha do Leite - Recife PE

(イ) ポルトガル病院(REAL HOSPITAL PORTUGUÊS) (日本語不可)

電話 : (81)34116-2222

住所 : Av. Agamenon Magalhaes, 4760

Ilha do Leite - Recife PE

(ウ) サンタ・ジョアナ病院(HOSPITAL SANTA JOANA) (日本語不可)

電話 : (81)3216-6666

住所 : Av. Joaquim Nabuco, 200

Gracas - Recife PE

オ 空港

レシフェ/グアララペス・ジルベルト・フレイレ国際空港

(運営会社：AENA BRASIL)

電話：(81)3322-4188

カ 日系団体

レシフェ日本文化協会 (Associação cultural japonesa do Recife)

電話：(81)3255-0692

(2) 簡単なポルトガル語集

ア 簡単なあいさつ

(ア) ありがとう (男性) Obrigado. (オブリガト)

ありがとう (女性) Obrigada. (オブリガタ)

(イ) おはよう Bom dia. (ボン ジーア)

(ウ) こんにちは Boa tarde. (ボア タジ)

(エ) こんばんは又はおやすみ Boa noite. (ボア ノイ)

(オ) はじめまして Muito prazer. (muit プラゼール)

(カ) さようなら Até logo. (アテ ローゴ) tchau (チャオ)

イ 緊急時

(ア) 助けて！ Socorro！ (ソコホ)

(イ) 泥棒だ！ Ladrão！ (ラドラーオン)

(ウ) 強盗だ！ Assalto！ (アサト)

(エ) 誰か手伝って下さい。Alguem me ajude, por favor.

(アウケン メ アジューテ、ホル ファホール)

(オ) 警察署はどこにありますか？Onde fica a delegacia？

(オンジ フィカ ア デレガシーア?)

(カ) 警察を呼んで下さい。Chame a policia, por favor.

(シャメ ア ポリシア、ホル ファホール)

(キ) パスポートを盗まれました。O meu passaporte foi roubado.

(オ メウ パッサポルチ フォイ ホウハート)

(ク) 病院に運んで下さい。Transporte-me para o hospital, por favor.

(トランスポルチ メ パラ オ オスピタウ、ホル ファホール)

(ケ) 火事だ！消防車を呼んで下さい。Incêndio！Chame o bombeiro.

(インセンジオ！ シャメ オ ボンベイロ)

(コ) 誰か日本語〔英語〕を話せますか？Alguem fala japonês〔inglês〕？

(アウケン ファーラ ジャポネース〔イングレース〕)

(サ) 総領事館に電話して下さい。Telefone ao Consulado do Japão, por favor.

(テレフォニ アオ コンスラト ド ジャパオン、 ホル ファホール)

以上